

ホーム > ドライブポーター > やまもの紀行 > 香川・岡本焼

やまもの紀行 香川・岡本焼



ぬくもり醸す肌合い

香川県三豊市で、農閑期に生活雑器として焼かれていた岡本焼。行商人が売り歩き、西日本人々の暮らしの中で愛用されてきたが、今は往時の面影はない。そんな中、赤茶色の肌合いが独特のぬくもりを醸す岡本焼を守る大西修治さん（陶号・四国三郎）（60歳）を訪ねた。

大西さんの工房は、JR土讃線・讃岐財田（さぬきさいだ）駅のすぐ北側にある。金刀比羅宮参りでにぎわう琴平駅から乗り継いで3駅目。20分足らずで到着するが、この日は、約1時間の接続待ちだった。到着時間を大西さんに告げると、「そんなら迎えに行つてあげるわ。途中で、さぬきうどんでも食べたらええよ」。言葉に甘えることにした。

青々とした田園を突き抜けるように延びる道路の脇にあるうどん店。駐車場には昼前というのに、すでに車がいっぱい。つやつやとして、こしの強いうどんは絶品。土産に買って帰ろうとすると、「地元のもんは地元で食べるのが一番」と大西さんに止められた。

讃岐財田駅から約10キロ北西にある同市豊中町岡本は明治、大正期に「焙烙（ほうろく）」と呼ばれる素焼き陶器の産地として栄えた。近くには藤原京（奈良県橿原市、694年～710年）の造営に際して軒平瓦などを焼いた「宗吉瓦窯（むねよしがよう）跡」があり、古くから良質の土が採れた。

大西さんの父親も焙烙の土釜や郷土料理「しょうゆ豆」に使うソラ豆を炒る鍋を売る仕事にかかわっていた。「自然に陶芸の道に入った」が、高度成長期を迎え、社会の変化とともに、焙烙は売れなくなった。近所に4、5軒あった窯元は、大西さんが成人する頃には次々と姿を消していった。



「土地の味」大切に 伝統を守りたい 大西 修治さん

20歳代後半の頃、四国八十八か所霊場の七十番札所・本山寺の住職から、お遍路さんの接待係を頼まれた。境内にある茶店で、自作の茶碗でもてなし、店内には作品も並べた。「お遍路さんとの会話の中にたくさんのヒントがあった」という。今でも、各地のデパートに出展すると、本山寺で出会ったお遍路さんが訪ねてくれることがある。

約20年間、茶の接待係を続けたが、住職の代替わりを機に、陶芸に専念した。地元の陶芸仲間と共同で工房を開いた。当初は電気、ガス窯で焼いていたが、焼き締めならではの味わいを引き出すために、薪の灰が自然の釉薬（ゆうやく）になる登り窯を持ちたいと、5年前に現在の工房に移った。

鉄分を多く含んだ岡本の土は低温で素焼きにすると薄茶色に仕上がるが、約1250度の高温で焼き締めると、赤茶色の肌合いになる。

昨年夏に完成した登り窯は、上へ上へと登っていく炎の力を生かせる傾斜にこだわった。これまで2度火を入れた。「馴染むのには、あと3年はかかるやろう。薪の灰を被ると、いろんな表情が出てええよ」と顔がほころぶ。

岡本焼を支えてきた伝統工芸士の詫間貞利さんが今年亡くなり、岡本焼は大西さんの双肩にかかる。「焼き物もどんどんと同じ。土地の土を使って、その土地で焼くからなんともいえない味が出る。そんな味のある焼き物を作っていくことが、岡本焼の伝統を守ることになるんじゃないかな」。穏やかだった表情がきりりと引き締まった。



作品クローズアップ

水に濡らすと“赤み”鮮やか

ある展示会でのこと。ディスプレイしていた花器に物が当たって割れてしまった。「大きな花器やっだし、捨てるのはもったいない。中に小さな花瓶を置いて飾っていたら、評判がよかったんよ」と大西さん。

写真の作品は、その時の割れた花器をイメージした。高さ約40センチ。ヒモ状にした粘土を積んでゆく「ヒモ作り技法」で形を作り、最後にダイナミックに側面や上部を削り取って表情を出す。「ドテツと重く見えないように仕上げるのが難しい。動きがあると軽やかに見え、狭いところにも置いてもらえるやう」

岡本焼らしい赤みを帯びた陶肌は、水で濡らすと一層温かみが出て、シャープな切り口とのコントラストが鮮やかだ。横置きにしたり、背の高い花を生けた時は前後を逆に置くのも面白い。

陶号の四国三郎は「吉野川」の異名で、大河のようなスケールの大きな生き方が夢だという。

マップ & ガイド



車なら徳島自動車道・井川池田インターチェンジ（IC）、または高松自動車道・さぬき豊中ICから三豊市へ。JR土讃線・讃岐財田駅の北側に大西さんの工房と作品を展示販売する「ギャラリーとよなか」がある。温泉、物産館、パークゴルフ場がある道の駅「たからだの里さいた」=写真上=までは車で約5分。藤原京期の窯跡を整備した「宗吉瓦窯跡史跡公園」「宗吉かわらの里展示館」=同下=（展示館のみ有料）へは車で約15分。金刀比羅宮まで足を延ばすのもおすすめ。

歴史探訪

昭和初期まで隆盛誇る

三豊市一帯は、良質の粘土と、薪の材料になるマツの木が多かったことから、7世紀ごろには須恵器が盛んに焼かれていた。藤原京に大量の瓦を供給した「宗吉瓦窯」跡では、複弁八葉蓮華文軒丸瓦（ふくべんはちようれんげもんのきまるがわら）なども出土、仏教興隆期の瓦の一大産地だった。

明治期から始まる岡本焼は、焼き物に適したこの地方の土が利用された。農家が副業で土鍋や釜、瓦、土管などを焼いた。明治末期から昭和初期まで隆盛を誇り、行商人が荷車に積んで、九州や中国、四国地方に売り歩いた。1986年、香川県の伝統的工芸品に指定された。

この情報は、2009年7月31日の読売新聞朝刊（大阪本社版）に掲載されたものです。（企画・制作／読売新聞大阪本社広告局）

最新の記事・過去の記事はこちら

地域の情報 | 関西 | 中国 | 四国 | 九州・沖縄

↑ ページの先頭へ

料金・経路検索 | 出発IC | 到着IC | 車種選択 | 普通車 | 検索

道路交通情報 | 通行止め情報 | 本線の通行止め情報があります。 (16日 12:20) | 最新の情報に更新 | ご利用について

本日の渋滞予測 | 4月16日は8箇所で渋滞が予測されています

アイハイウェイ | 現在の渋滞情報 (道路交通情報NOW) | 渋滞予測カレンダー | 工事規制・通行止め情報 | ETCレーン閉鎖情報 | 渋滞避けるまっぴ | SA・PA駐車場混み具合まっぴ

高速道路ネットワーク案内 | ICT案内図 | 高速バス停マップ

モバイルサイトのご案内 | www.w-nexco.co.jp/mobile/ | 携帯電話での料金・経路検索はこちら | QRコード

サービスエリアで使える割引クーポン券 | みち旅 詳しくはこちら | みち旅 (NEXCO西日本の宿泊予約サイト)